

WORKTECH™ 21 Tokyo

WORK / WORKPLACE / TECHNOLOGY / INNOVATION

EXPLORE THE FUTURE OF WORK AND THE WORKPLACE

オンラインフォーラム

2021年10月12日(火)8:00～10月17日(日)20:00 ＊6日間限定配信

チケット価格 7,000円

WORKTECH21 TOKYO オンラインフォーラムは、仕事とワークプレイスの未来・不動産・テクノロジー及びイノベーションに関わる全ての方のバーチャルカンファレンスです。ワークプレイスの未来に関する最新のトレンドや研究について学ぶことができます。

現在最も成功している企業・先進的で影響力のある組織や機関より、世界トップクラスの国際的な思想家・産業界のストラテジスト・先鋭的なビジョナリーを招き、パンデミックにおける仕事の未来についてプレゼンテーションを行います。

日本語版ウェブサイトは、こちらをご覧ください。

[HTTPS://WORKTECHEVENTS.COM/JA/EVENTS/WORKTECH21-TOKYO-VIRTUAL/](https://worktechevents.com/ja/events/worktech21-tokyo-virtual/)

PLATINUM SPONSORS

KOKUYO

SILVER SPONSORS


M O R I

BRONZE SPONSOR

 **BUNSHODO**

Worker's Resort

SUPPORTED BY

JFMA

WORKTECH™ ACADEMY

SESSIONS INCLUDE



グーグル「ダウンタウン・ウエスト」プロジェクト:働き方の新時代に向けた活気あるコミュニティの育成とは - Google's Downtown West: Fostering Thriving Communities in the New Era of Work

ダウンタウン・ウエストは、グーグル社の世界最大規模のキャンパスとなり、730万平方フィートのオフィススペースに加え、50万平方フィート以上のショップ、レストラン、居住スペースを備えています。この複合型メガキャンパスは、サンノゼのダウンタウンの包括的な新名所となることを目的としており、プレイスメイキング、住宅（手頃な価格を含む）、経済発展及び環境へのサステナビリティへの取り組みを計画しています。当セッションでは、先駆的なプロジェクトに関する最新の考察と、このプロジェクトが果たすべき仕事とサンノゼの都市生活の未来に対する役割についてお話しします。

Alexa Arena

Google シニア ディレクター

グーグル社のシニア・ディレクター、サンノゼ・キャンパス開発計画のディレクターを務める。当キャンパスの開発は、都市の複合施設を建設予定であり、トランジットハブを中心に構築された80エーカーの敷地には、730万平方フィートのオフィススペース、4,000戸の住宅、15エーカーの公園、広場、緑地、そして50万平方フィートの小売店、文化、芸術、教育、ホテルなどに特化した施設となる。



自然と人の融和を実現する都市のコラボレーションデザインとは - Making our cities more human through collaborative design

本独占インタビューでは、ヘザウィック・スタジオの世界的デザイナーであるヘザウィック氏が、現代都市がどのようにして魂(愛情)を失ったのか、自然と人が融合し多様性・楽観性に富んだ環境を創造するために私達に何が出来るのかを提唱。東京でのプロジェクトの最新情報やコロナ禍のパンデミックによって広がったコラボレーションのネットワークについても語ります。

Thomas Heatherwick, CBE

Heatherwick Studio 創設者・デザイナー

イギリス出身のデザイナーであり、ロンドンを拠点とするデザイン事務所「Heatherwick Studio」の創設者。イギリスにおいて最も重要なデザイナーの一人と評されている。ロンドンのキングス・クロスにあるスタジオ兼工房では、約200人の建築家・デザイナー・製作スタッフがチームとして働く。同スタジオは設立以来、エレガントなフォルム・独創的なデザインソリューション・先駆的な素材の使用で世界的な評価を獲得。同スタジオの主なプロジェクト及び受賞歴はThe Rolling Bridge, Paddington Basin (2004年)、「East Beach Cafe, Littlehampton」(2007年)、「2010年開催上海万博の英国パビリオン」(2010年)、「New Bus for London」(2010年)、「Olympic Cauldron」(2012年)



オフィス回帰への手段とは:何がオフィスに戻ることに違いを生み出すのか - Routes to Revival: What will make the difference in the return to the office?

当セッションでは、WORKTECH Tokyoのチェアマンであり、WORKTECH Academyのディレクターでもあるジェレミー氏が、コロナウイルスの危機から立ち直るために世界の企業が採用しているワークプレイス戦略を検証します。確固たる意思を持ち、オフィスに戻ってくるのは誰なのか?そして、場所にとらわれず仕事ができるモデルのチャンピオンは誰なのかを考察します。

Jeremy Myerson

WORKTECH Academy Director RCA(Royal College of Art) 研究教授

研究者であり、ワークプレイスデザインとイノベーションに関する文献やアクティビストとして知られる。王立美術院のヘレン・ハムリンデザインセンターの研究教授であり、オックスフォード大学の客員研究員でもある。ワークプレイスデザインについてこの分野で注目を集めた本を数冊出版しており、韓国、スイス、香港のデザイン学院の国際アドバイザーの一人としても招聘される。雑誌Wiredの中で、デジタルテクノロジー部門での「英国で最も影響を与えた100人」の一人に選出。デザイン研究の分野で、2016年に王立美術院の名誉博士の称号を得る。



ワン・マンハッタン・ウエストビル - One Manhattan West

アクセンチュアは、ワン・マンハッタン・ウエストの最上階8フロアに入居し、ニューヨークに拠点を置く3,000人以上のワーカーと幅広い能力を1つの場所に集結。最先端のワークプレイスデザインを採用した新しいスペースは、社員やクライアントが新しい方法で仕事やコラボレーションを行うことができるよう、フレキシブル且つ設定可能な環境を提供し、ビジネスの拡大に伴う更なる成長に対応します。

Michael Przytula

Accenture- Intelligent & Digital Workplaces部門, マネージング ディレクター

アクセンチュアの Intelligent & Digital Workplaces部門のマネージング・ディレクターであり、25年以上にわたり世界中の大手企業のテクノロジーを活用した働き方改革を支援。人・場所・テクノロジーの融合に関して影響力を持つ思想家であり、多国籍企業のクライアントに対し、ワークプレイスにおける社員の経験と生産性向上の為にどのようなテクノロジー活用を行うべきかアドバイスを行う。

Harry Morphakis

Accenture- Intelligent & Digital Workplaces マネージャー

アクセンチュアの Intelligent & Digital Workplaces部門のマネージャーであり、英国の Intelligent Buildings Capabilityを担当。北米では、コネクテッドビルディングである「1 Manhattan West」開発プロジェクトのデジタルエクスペリエンスの構築と設計を担当。また、世界最大規模の金融機関やライフサイエンスを支援し、ニューノーマルに向けた次世代のワークプレイスを構築。



MR(複合現実)を導入したワークプレイスの実現とは - Implementing Mixed Reality to enable the Workplace

VR-バーチャルリアリティとAR-オーグメンテッドリアリティの時代が遂に到来。長年のトライ・アンド・エラーを経て、更にパンデミックによる記録的な数のワーカーがリモートで働くようになり、家庭でもオフィスでもバーチャルリアリティ (VR) や拡張現実 (AR) が日常的に使われるようになるかもしれません。当セッションでは、組織が未来のワークプレイス戦略をサポートし、ワーカーの体験を向上させるために、バーチャルリアリティ技術やバーチャル環境にどのように投資できるかを議論します。

Andy Repton

JPMorgan Chase, Product Management & Innovation部門, 統括部長

JPモルガン・チェースのワークプレイスのプロダクトマネジメント及びイノベーションの責任者。社員のニーズを深く理解し最高のワークプレイス体験を開発。テクノロジーと文化の融合をテーマに何年もの間、情熱を傾ける。プロダクトマネジメントへの異動前は、グローバル且つ多分野にまたがるテクノロジー部門で、組織のアジリティを高めるための大規模な変革プログラムを指揮。テクノロジープラットフォームのエンジニアリングと運用の経験を持ち、ゴールドマン・サックスではテクノロジーチームを率いており、チームダイナミクスとエンタープライズアジリティへの情熱を育んだ。刺激的なワークプレイスを創ることが彼のミッションである。

SESSIONS INCLUDE



ワークプレスの現状とは - State of the Workplace

WORKTECHは、人・場所・そして何よりテクノロジーの調和が、仕事の未来を構築する際の基盤となるべきだという理念に基づいて設立しました。世界的パンデミックの中、企業がリモートワークやハイブリッドモデルを核とした新しいモデルへと軸足を移したことで、このビジョンが注目を集めています。当セッションでは、注目されなかったアイデアがどのようにして主流となるのか、世界を形成する新たなトレンドと最新のイノベーションの概要を紹介しながら、ポストコロナの新しい働き方の世界を受け入れ転換していく状況を描き出し、ワークプレスの新しいパラダイムを創造するためのツールを紹介。

Philip Ross

Cordless Group & UNWORK, CEO, 未来学者

未来の働き方を専門とする著者、コンサルタント兼コメンテーター。新技術をもたらす新トレンドや新勢力により、我々の働き方、生き方、学び方、余暇の楽しみ方がどのように形成されていくのかを予測。1994年にはCordlessグループを設立し、コードレス・オフィス・レポートを出版。他にも、ジェレミー・マイヤーソン氏との共著にて『The Creative Office』『The 21st Century Office』や『Space to Work』等、都市・仕事・ワークプレスの未来に関する著書に加え、『Corporate Fool』や『The Responsible Workplace』を含む多数を手掛ける。



ポストコロナのワークプレイスは、果たしてポストパンデミックの労働力をサポートする準備ができていますか? - Are Your Post-Pandemic Workplaces Ready to Support Your Post-Pandemic Workforce?

COVID-19は不動産のボディブローとなるのか? もしくは既に進行中のトレンドを急加速させるものとなるのか? いずれにしても、正に今行動すべき時が来たのです。ビジネスリーダーが組織におけるワークプレスの役割を再評価しようとしている中、世界最大のワーカーによるワークプレイス・エクスペリエンスのベンチマークの調査によると、一連のシンプルなテストによって、組織がポストパンデミックのワークプレスの未来に向けどれだけ準備ができていたかを判断できることがわかりました。これらの質問に対する答えは、リーダーがどこに注力すべきか、どこにチャンスがあるのか、どこにレガシーシステムの弱点があるのか、以前よりも優れたニューノーマルを知る近道となります。これらの質問に対する答えが、未来への準備となり競争力を獲得します。

Dr. Peggie Rothe

Leesman- Insights & Research チーフ オフィサー

ワーカーのワークプレイス体験と組織の成功に必要なワークプレスの戦略的役割とは何か常に向き合い、働く環境におけるユーザーの視点を深く理解。リーズマンのチーフオフィサーとして、世界最大規模の独立したワークプレイス・エクスペリエンスのデータベースリサーチをリード。組織にとって人と場所の相互関係がいかに必要かリサーチを行う。



ハイブリッド・ワークの未来 - The Future of Hybrid Work

GAFAはじめ世界各国のグローバル企業が、オフィスとリモートを併用するハイブリッドワークへと進む中、今後のワークプレイス戦略はどうなっていくのでしょうか。オフィスだけを考えていても回答は出ず、統合的な視点にたって考える必要があります。取捨選択され残るオフィスの機能、メタバースやVRなどデジタルワークプレイスの発展、在宅を中心とした地域コミュニティの再生、ワーカーの就労観の変化、都市機能の再編など、海外の先端事例を元に、ハイブリッド化によって起こる変化とその可能性について解説します。

山下 正太郎

コクヨ株式会社 ワークスタイル研究所 所長

京都工芸繊維大学大学院 博士前期課程 デザイン経営工学専攻修了後、コクヨ株式会社に入社。オフィスデザイナーとしてキャリアをスタートさせ、その後戦略的ワークスタイル実現のためのコンサルティング業務に従事。オフィス研究誌WORKSIGHTから創刊から携わり、研究的観点からも働く環境の可能性を追求している。



未来のワークプレイスとは: 在宅ワークよりも良い環境を作り出す - Future Workplace: Creating a better environment than working from home

コミュニケーション・テクノロジーがワークプレイスに変革を起こす中、BIG (Bjarke Ingels Group) のグローバルパートナーであり、ロンドンオフィスのテクニカルディレクターであるアンディ・ヤング氏が、オフィスビルの新しい目的とデザインの特徴について考察します。ベルリン・ロンドン及びカリフォルニア州マウンテンビューにあるGoogle本社のBIGのプロジェクトを紹介します。

Andy Young

BIG パートナー

2016年にロンドンオフィスのテクニカルディレクターとしてBIGに入社。25年以上にわたり、英国や中東での大規模プロジェクトの設計・施工に携わる。英国に加えコペンハーゲン・ニューヨークオフィスにも技術支援を行い、2016年以降、ベルリンにある8万平方メートルの複合施設「イーストサイドタワー」など、BIGの最も著名なプロジェクトを牽引。また、グーグルのキングスクロス新本社やCitylife Milanの技術設計を担当した他、中東での大規模プロジェクトにも携わる。



新しいワークプレイスにおける12のビルディングブロックとは - The 12 Building Blocks Of The New Workplace

先行き不透明なパンデミックの1年を経て、2つの事柄が明らかになりました。オフィスは今後も存続し、元の状態ではなく再定義されること。コロナ禍におけるリモートワークの試みは、物理的なワークプレイスなしではできないこと、できることがフォーカスされました。オフィスが担ってきた強力な社会性・協調性メリットも、パンデミックによりリモートワークの環境を余儀なくされたことで明らかになりました。ワークプレイスを変革し再定義する好機として、ポストコロナの新しい働き方をサポートし強化するために12の再構築されたスペース「New Workplace Kit of Parts」を開発しました。

Caroline Morris

Clive Wilkinson Architects アソシエイト・プロジェクトマネージャー

インテリア・アーキテクチャーのバックグラウンドを活かし、建築・インテリアデザイン・グラフィックデザイン・プロダクトデザインの分野で活躍。戦略的なマスタープランからクリエイティブなワークプレイスや展示物のデザインまで様々なプロジェクトに関わり、プロジェクトマネージャーとして、クライアント・コンサルタント及び社内プロジェクトチームと連携し、デザインディレクターのビジョンを実現。高度なコラボレーションプロセスにおいて、クライアントのビジネスや社会的な目標を理解しながら、ビジョンの策定やプログラミングからプロジェクトの完成までを指揮。

Amber Wernick

Clive Wilkinson Architects アソシエイト

Clive Wilkinson Architects のアソシエイト。ワークプレイス・教育・ヘルスケア及び住宅のインテリアの分野において12年以上の経験を持つ受賞歴のあるインテリアデザイナー兼ストラテジスト。ワークプレイス戦略に重点を置き世界で最もクリエイティブな企業とコラボレートを行い、社員の体験を変革。会社のビジョン策定とリサーチプロセスをリードし各クライアントの社会的・文化的かつ機能的な目標を満たすデザインソリューションを開発。Clive Wilkinson Architectsでは、シカゴのShirley Ryan AbilityLab、レッドウッドシティのスタンフォード大学キャンパス、バンクーバーに建設予定のlululemonグローバル本社など、様々なプロジェクトに貢献。